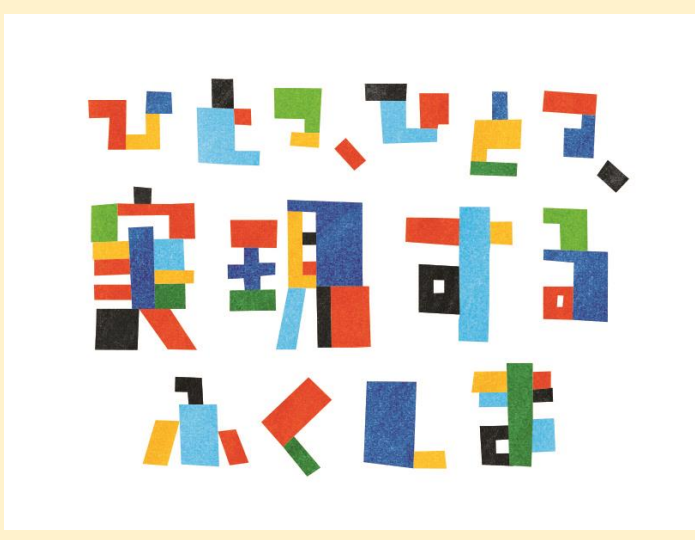


福島県内におけるキジ (*Phasianus colchicus*) の行動調査

福島県 ○村上 貴恵美、小松 仁、神田 幸亮



- ・近年、キジの放射性セシウム濃度は低下傾向が続いているが、出荷制限解除要件である移動性については不明な点が多い。
- ・キジにGPS発信器を装着し行動圏を調査した結果、最外郭法により推定した**キジの行動圏は1km²以下**と限定的であることが示された。

はじめに

○ キジ筋肉中の放射性セシウム濃度の推移

キジにおいても出荷制限は継続中だが、2014年以降、放射性セシウム濃度は食品基準値である100 Bq/kgを下回っている

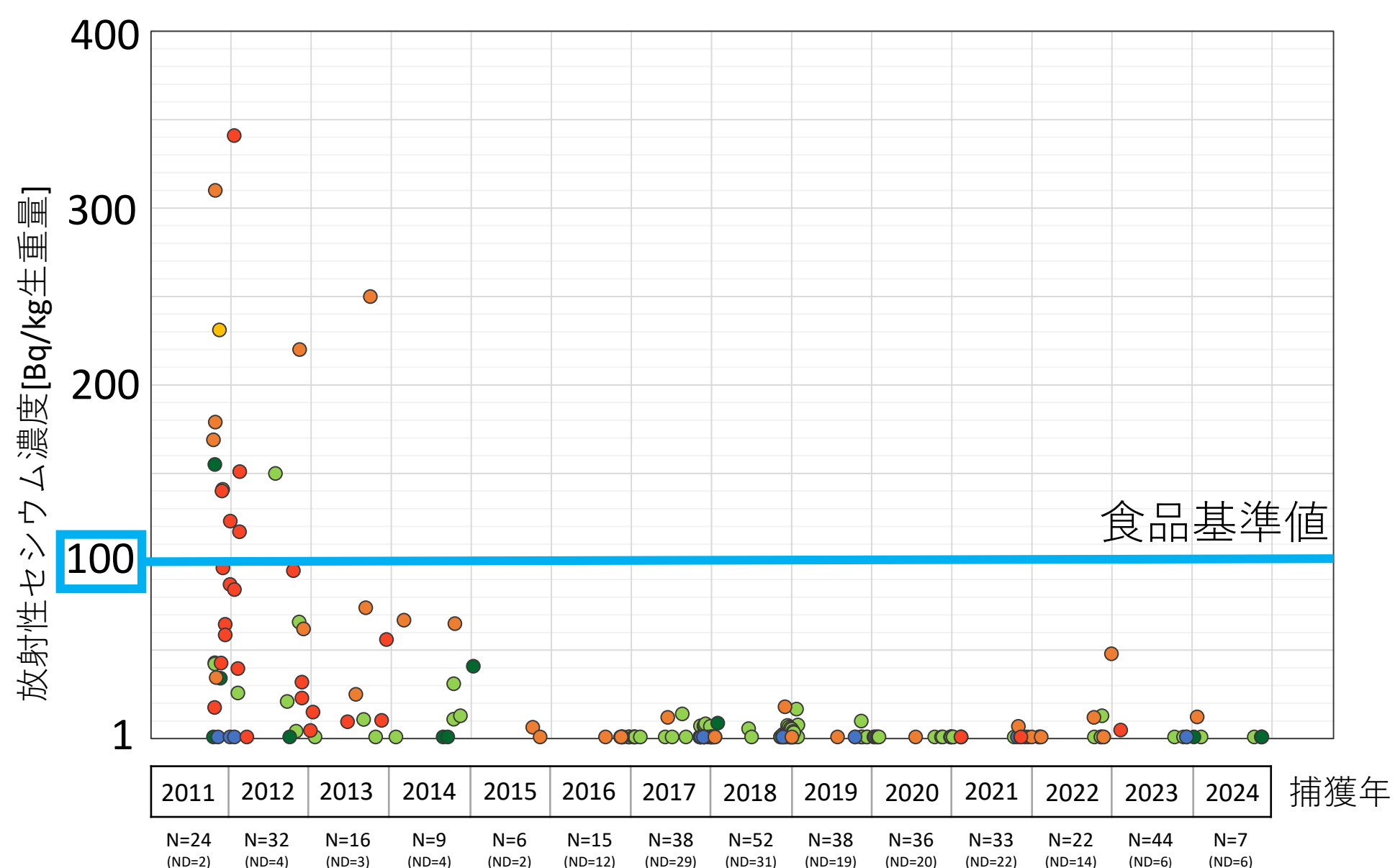
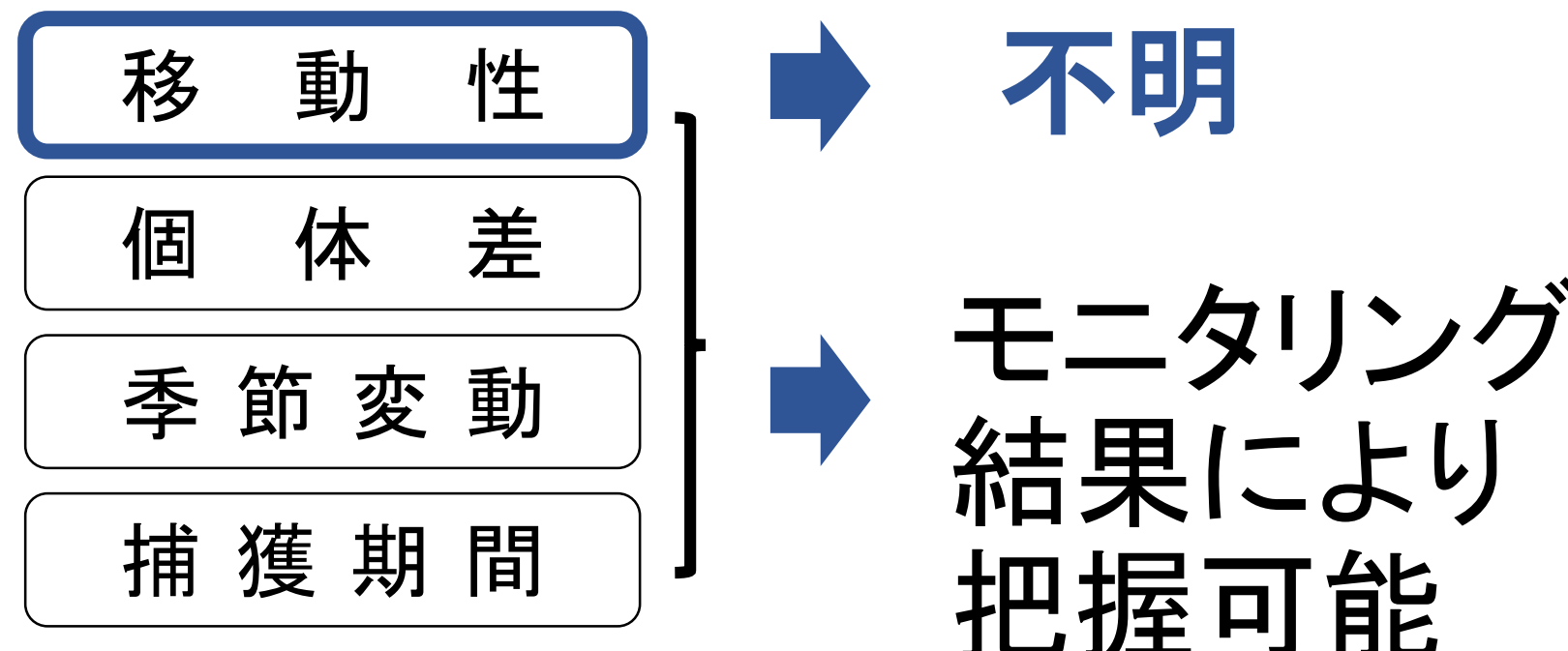


図1 キジの筋肉中放射性セシウム濃度の推移
➡ **出荷制限解除の可能性**

○ 出荷制限解除の要件

解除しようとする地域において、野生鳥獣の**移動性、個体差、季節変動、捕獲期間等**を考慮して十分な検体数を確保しつつ検査を実施し、その結果が安定して基準値を下回っていること

※「検査結果、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」(原子力災害対策本部令和6年3月26日)より抜粋



福島県内におけるキジの移動性の確認が必要
(高濃度地域からの移入の可能性を検討する必要がある)

キジの行動圏を明らかにし、今後の出荷制限解除の検討に資する知見を得ることを目的とする

実施内容

キジを捕獲しGPS発信器を装着後、放鳥しデータを収集することでその行動範囲を調査する

調査地: 福島県二本松市

調査数: 6羽

GPS発信器: PinPoint VHF350 (Lotek社)

データ取得期間: 11月～翌年2月(狩猟期の4ヶ月間)



図2 キジ捕獲場所

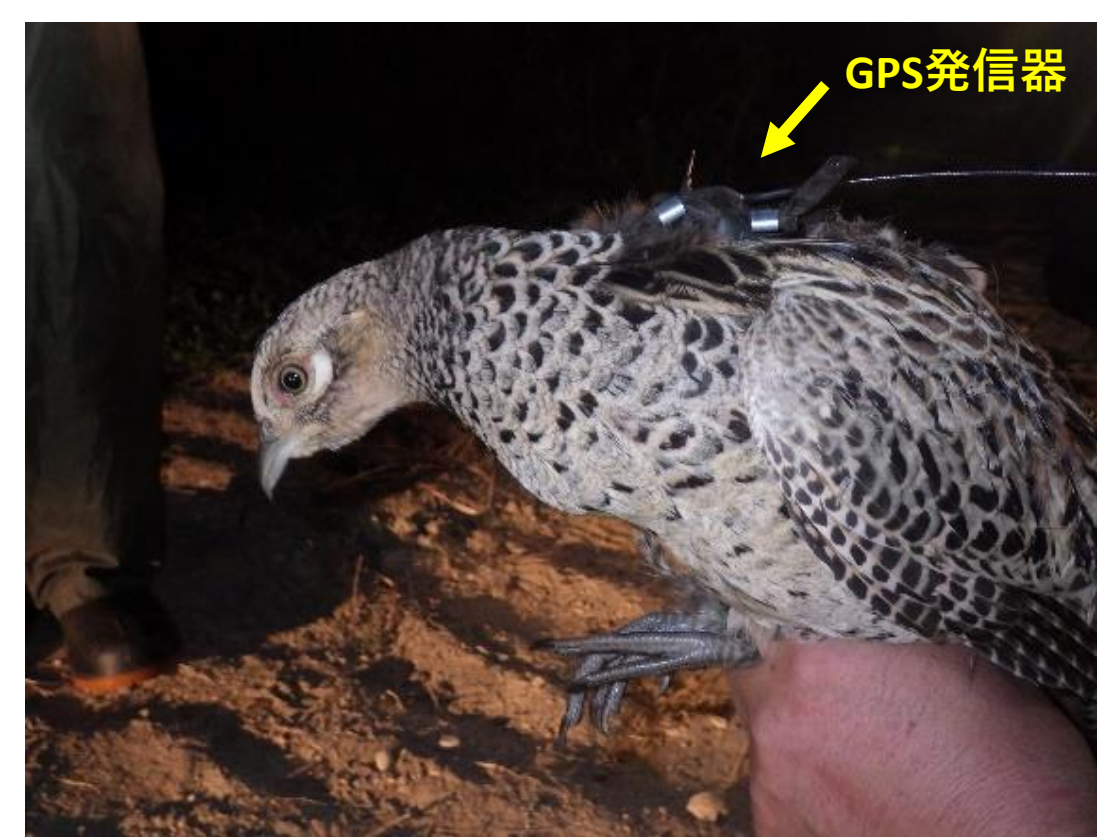


図3 GPS発信器の装着

結果、考察

最外郭法※により推定した捕獲個体の行動圏を図5及び表1に示す

※観察された位置の最も外側のポイントを結んだ多角形を作成し、行動圏を推定する方法

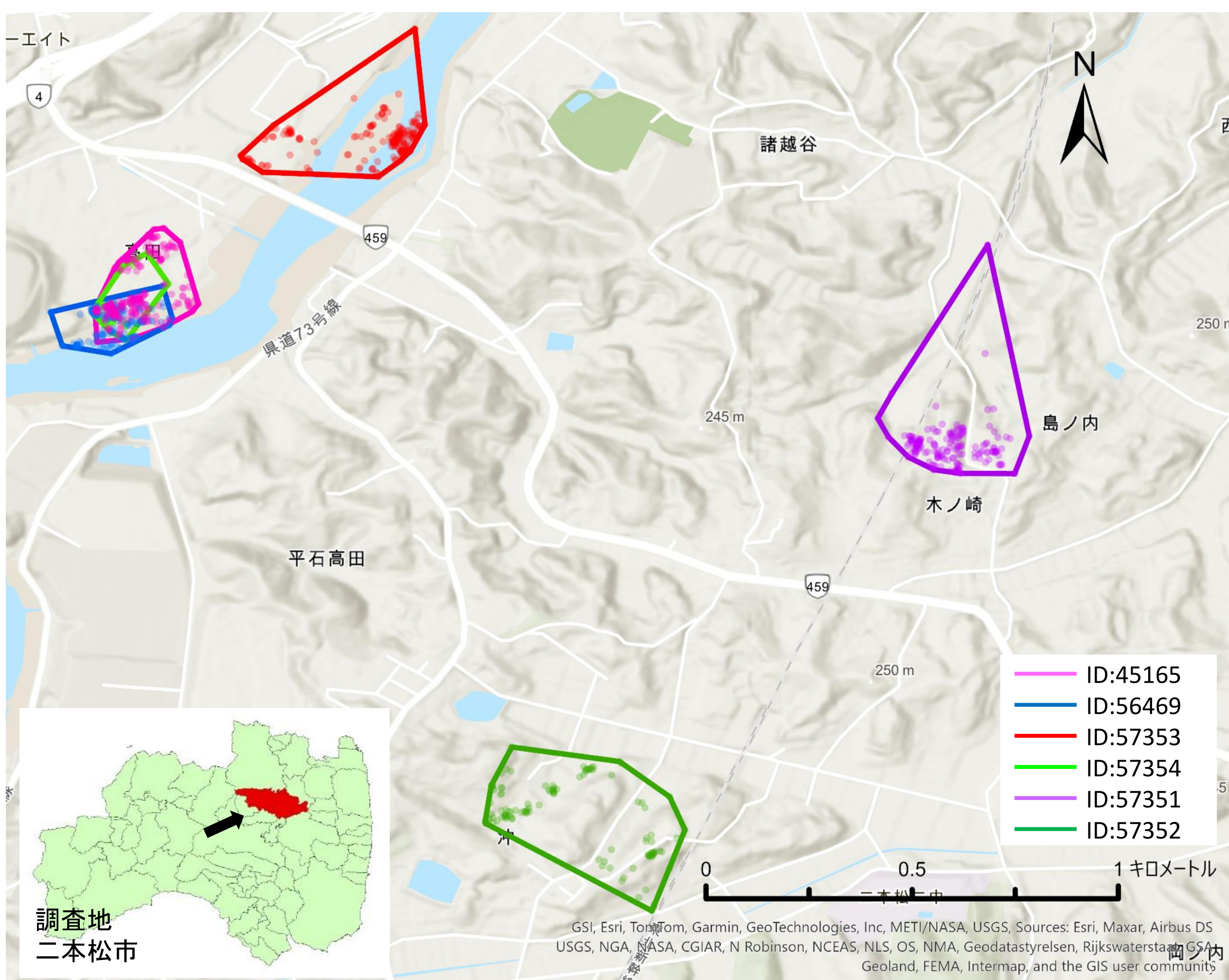


図4 最外殻法により推定した捕獲個体の行動圏

表1 最外殻法により推定した捕獲個体の行動圏

個体ID	ID:45165	ID:56469	ID:57353	ID:57354	ID:57351	ID:57352
性別	メス	メス	メス	メス	メス	メス
推定行動圏 [km ²]	0.036	0.024	0.069	0.016	0.092	0.093

○いずれも推定行動圏は**1km²以下**であり、キジの行動圏は**極めて狭く移動性が限定的**であることが示唆された
○このことから、原子力発電所周辺の高濃度地域個体が会津地方などの低濃度地域に移入する可能性は極めて低いと考えられる

今後、オス個体のデータ取得を目指す
出荷制限解除の検討に資する知見として活用
(※一部、県「野生動物肉の出荷・摂取に係る検討会」において報告済)